

(様式 2)

女性の就農環境改善計画

実施主体名	北海道若手女性農業者集団 LINKS
取組	地域の女性農業者グループの活動支援
構成員数	50

1 事業実施方針

私たちは北海道内でおよそ 50 名の会員がいる女性農業者グループである。構成員は 30-50 代の女性農業者で、経営主の妻、新規就農者、女性後継者など様々だ。運営は公的サポートを受けることなく全て事務局をはじめとする会員で行なっている。結成から 10 年になるが、8 年ほど前からこれまでに 30 回ほどの各種勉強会を独自で開催してきた。我々のグループの存在意義は「女性農業者の学びによる経営の向上」と、その結果注目されることによる「女性農業者の活動による農業界のイメージアップ」「農業女性の地位向上」である。グループ全体で何かを成し遂げるといよりも、所属している個々の農業者それぞれが自主自立した経営ができるようになり、地域に貢献できるようになることこそが、グループの目的の達成に近づくという団体だ。私たちの農業は一次産業のスマールビジネスではあるが、ターゲットが国内全域にとどまらず海外にも広がっている昨今、流通形態の多様化にとどまらず自然環境の変化や世界の食糧生産状況の大きな変化などにより、自らの農業経営の環境も大きく見直さなければならなくなってきたり、個々の経営力向上のために様々な分野における学びと実践が不可欠となってきたことを強く感じている。これまで、グループ内の研修を多く開催してきたが、それは農業関係団体が地域で開催するものが「女性」を対象としないものであったり、家族や地域から「女性」が勉強会に参加すること自体が許容されにくいという地域的・業界的な事情により、女性が経営的なことを学ぶことが難しいという課題のもと、それであれば地域という縛りを超えて我々が独自に学ぶ環境を整えていこうという形で続けてきており、所属会員からは大きく評価を得ている。しかし、これまでの独自の研修は座学による講義形式のものが多く、消費地や流通を自分の目で確かめることはなかなかできずにおり、生産地だけの学びに限界を感じているところであった。そこで今回、座学で学ぶだけではなく我々の生産物が出荷されている実際の消費地に出向き、販売されている状況を確認することで、より一層の学びとしていきたいと考えている。また、上述の農業を取り巻く環境の変化や流通の多様化・購買行動の複雑化に加え、一次産業以外の企業参入や E コマースの増加や細分化がされており、これまでの様な「農家向けでわかりやすい」「ターゲットが近隣の道直売所」という狭い範囲での商品開発の勉強会や、農家用の簿記・会計など狭い範囲での学びにとどまらず、広く一般企業のマーケティングや経営を学ぶことで、自社の課題を解決し、利益を生み、地域にも貢献できるような農業者になることを目的とし、今回、その課題解決の一端を担うべく、我々のグループは先進的な勉強会を構築し、参加し、構成メンバーの経営力強化に努めていきたい。今回、「企業研修」「視察」の 2 本柱で動いていく。まず、「研修」については、一般企業でマーケティングの先端を担っている方々から研修を受けることが決まっている（詳細は(2)の取り組みを参照)。「視察」については、首都圏でメンバーが取引のある店舗を中心に、自分達が生産している作物の販売状態がどのようなものなのかを視察する（視察先リストは(2)の取り組みを参照）。

今回の視察内容は全て動画にて録画をして配信（ライブ・オンデマンド両方）をするか、参加者がレポートを作成するかのいずれかの方法で行くことができなかつた会員に細かに共有することになっている。また、さらに報告会を開催し、質疑応答や今後の勉強会や商品開発・イベント開催の展開についてを話し合うこととしている。また、もう一方で北海道の農業女性グループとして大きく活動をするにも意義がある。北海道においては、女性農業者の地位が非常に低く、それは地域的にも家庭内においても強く見られる。そんな中、女性農業者が研修を受け、視察に行き、学びを得ることが日常的と認められる様な環境も整備していくことが、女性農業者の農業への参入に対する大きな障壁を壊すことになり、結果として女性の就農意欲の向上や、経営努力への意識の向上に寄与することになると考える。家庭内においても地位の低い女性農業者が研修に出かけにくいという事情もあり、国の事業で女性農業者が研修視察に行くということが公に認められれば、私たちのグループに所属している会員はもちろん、それ以外の多くの女性農業者が「学ぶこと」を今までよりも積極的に捉えることができ、その周囲の男性や親世代の人間の意識を変えていく大きなきっかけになるだろう。また、この活動を広く周知していくことで、地域で孤立してしまいがちな女性位農業者を受け入れられる居場所としての役割をこれまでよりも充実させていきたい。LINKS は SNS を活用してメンバー全員が情報交換をすることが常であり、勉強会や交流会もコロナ禍において既にオンラインで数回開催をしている。実際にメンバー同士が会うことがなくても、お互いに支え合うことができる体制も整っている。今回の視察に関しては、LINKS のインスタグラム、フェイスブック、ホームページに掲載し、農業に興味を持っている女性や、すでに農業をしている女性に向けても情報を発信する。農業系の大学生、大学の農学部、農業高校などに対しても研修内容と会の紹介をしていく。交流会や勉強会の内容が充実していることを周知することで、新たに LINKS に加入したいという女性農業者が連絡をしやすいようなフォームの作成も準備中である。

(注) 具体的に記載してください。

2 女性就農環境改善に向けた実施体制

内部的：事前にグループ内 SNS にて研修の日時、研修実況の日時を明示。研修後は動画をアーカイブし、また研修参加者が報告書も掲載する。別日に報告会（新型コロナウイルスの感染状況によってはオンライン）も開催する。この研修を機に、会員がより学びを深めて行けるようなスキームづくり（要望の吸い上げ、研修方法、講師探しなど）にも取り掛かり、個人としての充実はもちろん、グループとしての満足度も高めていきたい。外部的：研修終了後は、研修参加者が作成したレポートなどその概要を、LINK 事務局が外部用 SNS やホームページにて記載。こういった勉強会の必要性と、高いレベルでの勉強会をすることが可能であることを外部に告知するとともに、勉強会に参加したいという人を新規メンバーとして募集していく。LINKS は SNS やホームページを見た女性農業者が、その活動内容に賛同して加入することが多いので、告知の面に特に注力していく。また、農業に興味のある女性に対しても「農業界でも、女性でも、学びを続けることのできる場所がある」ということを周知し、農業で働くことを選択肢に入れてもらえるように各種農業団体にも LINKS の活動を知らせていく。また前述のとおり、今後農業を志す農業系の大学、大学の農学部、農業高校の学生などにも同様の活動を行う。LINKS 全体の会員数はおよそ 50 名。今回研修に参加するのは全道各地より 7 名を予定。

(注) 応募団体での受入体制や関係機関との連携状況等を具体的に記載してください。

第4の(1)の事業の応募者については、協議会等に属する構成員について5名以上の農業者(女性1名以上を含む)の氏名を記載してください。

3 女性就農環境改善のため実施している取組及び今後の取組

(1) 女性の就農希望者、新規就農者の呼び込みに向けた取組

内容	成果/目標	備考
<p>(過去の取り組み) 1、担い手センター主催で一般女性に農業に興味を持ってもらうための取り組み</p> <p>2、代表の内山が農業に興味のある大学生と意見交換回に参加</p> <p>(実施中の取り組み)</p> <p>1、ホームページに「新規就農者の部屋」というコーナーを作り、新規収納者へのアドバイスを掲載している</p> <p>2、ホームページやSNSで活動を報告</p> <p>(今後の取り組み)</p> <p>1、実施中の2を引き続き掲載していく</p> <p>2、今回の研修内容を担い手センターや新規就農者の受け入れをしている自治体などに研修内容の報告とLINKSの紹介をし、新規就農を考えている人のサポートの場となることを周知する。</p> <p>3、2と同様に、農業系大学、大学農学部、農業高校に対しても報告と周知を行う。</p> <p>4、現在一般消費者向けに運営している</p>	<p>LINKS 会員が実際に農業に興味のある女性に対してアドバイスを行った(その後就農を決めた人もいる)</p> <p>北海道大学の農業サークルと意見交換をした(彼らはまだ在学中のため就農していない)</p> <p>これを見た新規就農者が、一緒に活動したいと入会している これを見た女性農業者が、一緒に活動したいと入会している(会員の半数は、これらのサイトやテレビ・新聞報道でLINKSを知って入会している)</p> <p>道内各地に会員がいるので、各地のメンバーを通して、14振興局の農務課全てに対して投げかけを行っていく。</p>	

<p>Instagram において、より就農することが身近に感じられる内容を掲載していく。 →特に、就農後も勉強会や交流会でサポートしていくことができる面を全面に掲載</p>		
---	--	--

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 女性の新規就農者の農業や地域への定着に向けた取組

内容	成果/目標	備考
<p>(実施中・実施済の取り組み)</p> <p>1、会員 SNS による情報発信</p> <p>2、会員間での交流会</p> <p>3、会員に対しての勉強会</p> <p>4、マルシェの開催</p> <p>5、HP、SNS での活動報告</p> <p>6、企業とのコラボレーションイベント</p> <p>7、代表によるテレビ出演による女性農業者のイメージアップへの取り組み</p> <p>※LINKS が存在し、この中で地域を超えた女性の農業者の友人ができ、悩みを相談したり一緒</p>	<p>月平均 3 件の情報発信</p> <p>年に 1 回農繁期に開催</p> <p>年に 1 - 5 回、農繁期に開催 2012 年より年に数回開催 これまで全道で 30 回ほど実施 マルシェ内で企業とのコラボメニューを過去 10 品程度作成 各活動後に掲載 JA バンク イベントでの料理・食育講師 チーズ販促イベントでの料理講師 担い手センターとの一般女性に農業に興味を持ってもらうための取り組み 日本ハムファイターズとの食育コラボイベント (2年間)</p> <p>2014-2019、地方ローカル情報番組でのコメント出演</p>	

<p>に学 び続けることができているということが、何より 会員にとって大きな心の支えとなっている</p> <p>(今後の取り組み)</p> <p>1、上記1－4を継続</p> <p>2、5を強化</p> <p>3、勉強会の報告会開催</p> <p>4、勉強会の内容・方法の見直しと今後の視察研修の開催に向けた検討</p> <p>5、企業コラボ案件を増やす</p>	<p>今回の研修や視察を通し、より、会員の役に立つ内容はどんなことなのかを精査しながら、よりわかりやすい研修方法や視察の共有方法を見直し、今後、同様の研修を増やしていく。また、今回の視察を踏まえて、家族の説得方法も含めた今後の効率的な視察の方法を構築していく</p> <p>今回の研修で学んだことをもとに、自社の商品開発や LINKS として企業とのコラボ案件を増やせるように動く。</p>	
---	---	--

(注)「内容」欄には具体的な取組内容等を記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(3) 女性就農環境改善に向けた取組

内容	成果/目標	備 考
<p>※LINKS は結成して 10 年経過しているので、すでに LINKS の会員は各地で活躍をしている人が多く、それぞれが色々な場所での講演活動をしたり、様々な媒体の取材対象として紹介されて</p>		

<p>いる。引き続き、LINKS で今までの様な活動を続けていくことが、女性農業者の活躍に向けての大きな取り組みと考える</p>		
<p>(その他の今後の具体的な取り組み) 1、研修参加者は視察研修で学んだことを活かして、農園の経営向上に取り組む</p>	<p>研修参加者それぞれが、学んだことを活かして具体的に計画し成果物を作ることが目標</p>	
<p>2、研修参加者が研修によって作ることができた成果物や売上を、次年度以降の勉強会で取り上げ、会員内でシェアする</p>	<p>成果を報告することで、他の会員は参考事例として役立てることができる</p>	
<p>3、研修参加者の成果をはじめ、会員個人の活躍を拾い上げ、HP などでもロールモデルとして掲載する。(講演活動・取材活動・雑誌への寄稿など)</p>	<p>身近で活躍している会員を目標に、女性農業者として活躍しようという動機をと、活躍を後押しする世論を醸成していく</p>	
<p>4、今回予定している研修・視察について、地域で会員各自が所属しているような小さなグループ内にも共有してもらおう</p>	<p>LINKS 内だけにとどまらず、地域においても女性農業者が「学ぶ」ということを常態化させることで、地域においても活躍できる人材を育成していく</p>	
<p>5、さらなる会員獲得による、活躍を意識できる女性農業者を増やす</p>	<p>今回の研修内容を外部のホームページ や外部のSNS にも掲載することで、学びたい意欲を刺激し、女性が活躍するイメージを作りつつ、共に活動できる 会員を増やしていく</p>	

(注) 農業委員等に出選された等、地域での活躍状況等を「内容」欄に具体的に、取組内容等を含め記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

4 女性の就農環境改善対策事業を活用した取組の計画内容

(1) 働きやすい環境整備への支援

【計画内容】

時期	内容（対象者・方法等）	備考

(注) 「内容」欄には支援内容、対象者、実施方法等を具体的に記載し、第4の(1)の事業の応募者は、確保する施設等について5名以上の女性の利用者がいることがわかるよう記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

(2) 地域の女性グループの活動支援

【課題】 ※簡潔にご記入ください。※課題番号は必要に応じて追加・削除ください。

①	都心の大消費地から遠方にある北海道では、消費者の動向がわかりにくく、農業経営が変化に対応することが難しい。
②	日頃から農業の枠の中での勉強会ばかりで、広い経営の勉強が出来ていない。
③	地域内や家庭内において、女性農業者の地位は非常に低く、研修を受けたり視察へ行くことのハードルが高い。それにより、女性が農業へ参入することへの障壁が大きい。

【課題解決のための補助事業（概要）】 ※課題番号に対応するように記入ください。

①	メンバーの野菜が出荷されてもいる大消費地に出向き売り場などを視察し、実際の消費者のニーズを聞いたり、販売店の声を聞き、自社の商品のブラッシュアップや、新商品開発に役立てる。
②	申し込み先の一般企業のマーケティングや経営を学ぶことで、自社の課題を解決し、利益を生み、地域にも貢献出来るような農業者になる。
③	今回の視察内容を録画、また参加者のレポートを作成し、報告会で、視察に参加出来なかったグループの会員に共有する。

【事業成果と今後のプラン】

※課題番号に対応するように記入ください。

※どのようにグループ活動の活性化及び今後の活動に繋がるか分かりやすく記入ください。

※できる限り、数値目標を入れてください。

※商品計画については、翌年度以降の販売事業計画をご記入ください。

①	メンバー各自が自社商品をブラッシュアップしたり商品開発をする、また企業とのコラボ商品を開発し、自社やリンクスのマルシェで販売する。
②	企業のマーケティングを学び、新しい経営や販売の仕方などを実施する。
③	視察内容をレポートにまとめて報告会を数回行い、さらにグループメンバーとディスカッションを行い、学びを深め、商品につなげていく。また、企業の前線で働く女性たちから、今後の女性の働き方について学び、農業女性の新しい在り方について模索し、発信していく。(SNS、HP、パンフレットなどで)

【事業内容（詳細）】

課題番号	時期	グループ活動内容（対象者・方法等）	事業実施経費（費目・金額）	備考
① ②	～8月	研修内容、研修先、研修参加者の決定、 研修先との打ち合わせ LINKS ホームページと SNS 内容の更新	0円	会員紹介、活動内容をより広く掲載
① ②	11月	研修に参加	旅費 422,669円 謝金 136,362円	視察先のオンライン配信など
① ② ③	12月	研修の報告会①②	報告会① 4,182円	
① ② ③	2023年1月	研修の報告会③	報告会②4,182円 報告会③4,182円	
① ② ③	2023年1月	研修内容を地域で拡散できるような資料作成 振興局や大学関係などに報告・周知	チラシ印刷 4,400円 チラシ発送 8,409円	
③	2023年3月	研修での内容をホームページと外部 SNS に掲載	0円	

(注) 「内容」欄には支援内容、対象者、実施方法等を具体的に記載し、必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

5 女性農業者確保の目標

事業実施年度翌年度までの女性農業者の新規確保人数	14	人
(新規確保女性農業者の内訳)		
自営農業就業者	7	人
雇用就農者	2	人
アルバイト・ボランティア等	5	人

(注) 必要に応じ、計画の詳細等を記載した資料を添付してください。

女性農業者は、新規参入者、自営農業就農者(結婚を機に就農された方含む)、雇用就農者、アルバイト、ボランティア等を含む農業関連事業従事年間30日以上の方とします。

農業関連事業とは、農産物製造・加工、農畜産物の貯蔵、運搬、販売、農業生産資材の製造、農作業の受託、都市住民等の農作業体験施設の設置・運営や民宿業を含みます。